

すてんころんの養生訓 ⑥



H・K

私は、霊や祟りなどの超常現象をあまり信じないタイプなのだが、ひよっとしたら???といまだに答えの出ない経験をしたことがある。

十数年前、39度の発熱が2日続き、病院へ。診察した医師が首をかしげながら「赤い斑点が出ていますし、症状から風疹のように思うのですが、以前にかかっているようだし…」

え！風疹？ 50過ぎて二度目の！斑点は出てきているが、まさか…で、結局隔離入院。世にも珍しい二度目の風疹で。入院してからも高熱を繰り返していたのだが、5日ほどたった朝方、夢をみた。祖母の葬儀の夢を。小学5年生の時亡くなった祖母。以来一度も夢を見たこともない祖母の葬儀の夢。祖母の葬儀の実際は覚えてはいないが、夢では不思議なのだが祖母の葬式だと分かっていった。そしてなぜか、葬儀に背を向けていた私に祖母らしき声呼び掛けてきたが、私は振り向かずそこを離れて、目が覚めた。熱は1週間で下がり退院したが、あの奇妙な夢は忘れられない。あの時振り返っていたら??? 皆さん、ご用心！ 夢で呼ばれても振り向かないで。

救急車という乗り物は何度乗っても乗り心地は悪い。特に一人の時は乗るまでも大変だ。虚血性大腸炎の時だったか、一人の時救急車を頼んだ。「ドアが開けれないなら壊します」と言われ、這いながら玄関へ行ったことがある。一人住まいの方、ご用心！ 助けを呼ぶ為の段取りを普段から考えておくこと。熱中症で3回、過呼吸2回、骨折、交通事故5回など、何度救急車の世話になったことか。

しかし、一過性の症状は病氣慣れする。国家試験の最中に過呼吸になった時には、ナイロンの袋片手に試験を受け、足指骨折の時は、ギプスのまま歩いたものだ。

いつだったか健康診断で、私の病歴を見た老医師が「大変でしたねえ」と同情してくれた。確かに何度も病氣し、今もいくつも病氣を抱え

ているが、どっこい！ 生きている、歩いている、皆さんにすてんころんを書いていく。そう、人生百年時代。化学も医学も進歩している。情報を上手く活用し、病魔に取り込まれないようすてんころんにご用心！ ご用心！ お達者で！。(おわり)